

vol. 2325

【発行】大分県高等学校教職員組合教宣部 大分市大字下郡496-38 大分県教育会館  
TEL / (097) 556-2838 FAX / (097) 556-8998 MAIL / ohtwu@view.ocn.ne.jp

# 大分県高教組情報

【発行者】大野 真二 【印刷】(株)佐伯コミュニケーションズ 【売価】30円(組合員の購読料は組合費の中に含んで徴収しています)



## 今号の掲載内容 (掲載順)

- 九協高校教育シンポジウム参加報告
- 原水禁世界大会(広島大会)参加報告
- 第5回 全国高校学習・運動交流2024大分集会
- 第66回 九協教育運動交流集会・第40回カリキュラム編成講座
- 第55回 九協組織運動交流集会

## 九協高校教育シンポジウム 参加報告

とき：8月1日(木) 2日(金) ところ：熊本県教育会館

第2分科会では、大分からSPACEコース設置に向けての課題、宮崎からは学区制廃止に伴う入試実態とその課題、鹿児島からはLGBTQの観点からの制服変更についてのレポート発表がありました。学校の特色化を求められている現状と、地域・社会から求められていること、公教育と家庭教育についてなど、様々な観点から考えて意見交換しました。日頃じっくりと考えられていなかった課題を考える有意義な時間となりました。(国東分会 藪亀尋子)

1 本目の沖縄高のレポートは、SSHの探究活動の中で校則緩和の意義を訴え、実際に制服なし、メイクありの期間を経て、その後、不登校だった生徒が登校を続け、生徒全般としては個性が尊重されていると感じているという実践的なものであった。教職員が強くすすめるものではないかもしれないが、大分でもとりくみたいと思わせるものであった。

2 本目の福岡高の通級指導のレポートを通じては、多くの教職員に発達障害のことを知ってもらうことの意義を感じた。

3 本目の熊本高のレポートは、大分と違う形で少人数職種の方を守っているというものであった。

討議の中で各県がそれぞれのやり方で生徒・教職員の権利を守っていることを感じ、今後の活動のエネルギーをいただいた。(大分工業定時制分会 竹本哲也)

## 原水禁世界大会(広島大会) 参加報告

とき：8月4日(日)～6日(火) ところ：広島県

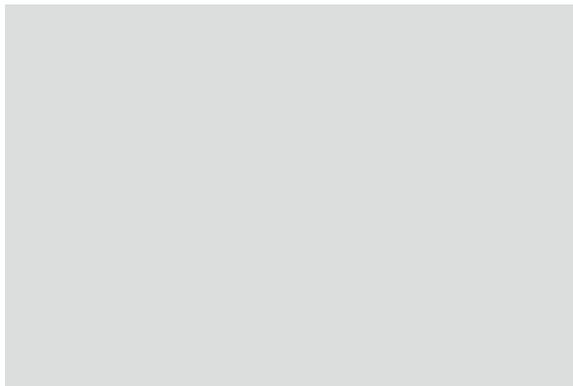
初日の折鶴平和行進は、猛暑の中でしたが、全国から様々な団体の旗が集結し、パワーある大行進に力が湧きました。2日目の分科会では、『平和と核廃絶～世界の核軍縮～』、午後は『ヒバクを許さないつどい』に参加しました。団体代表者や海外ゲストなどによる活動の紹介や問題提起があり、新たな学びのある貴重な1日となりました。最終日の8月6日は平和記念式典に参加。こども代表による平和への誓いは、直接胸に響き目頭が熱くなりました。

8月6日に広島を訪れることで、平和学習での知識が一瞬でリアルな体験として上書きされ、この日にこの地で世界平和を祈ることができたの

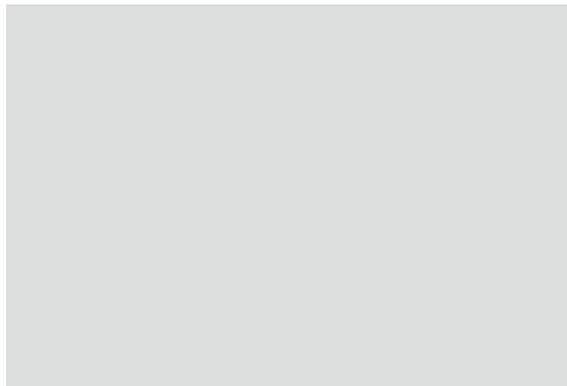
高校生の姿も

は、本当に意義ある経験となりました。ありがとうございました。

(中津支援分会 宇都優子)



福島代表挨拶



一般席の最前列にて

## 第5回全国高校学習・運動交流2024大分集会

とき：8月7日（水）8日（木） ところ：ソレイユ大分

第5回となる「全国高校学習・運動交流集会」が大分県で開催されました。全国の高校の教職員が集い、高校教育を取り巻く課題について議論しました。大分県での開催ということもあり、高教組からも多くの仲間が参加しました。

全体会では、日教組の高校・大学担当の佐藤貴之さんによる「高校教育をめぐる課題」と題した報告をもとに学習会を行いました。また、大分高退教、伊方原発をとめる大分裁判の会会員である森山賢太郎さんによる「伊方原発差し止め訴訟」についての報告、都高教書記長の菅谷知由さんによる「東京都の主任教諭制度」についての報告があり

ました。東京都の主任教諭制度は中教審が「新しい職」の参考にしたとされる制度です。現場では課題が多くあるにもかかわらず、現場実態を十分に把握していない都教委による報告をもとに「新しい職」の創設が動き出してしまった、ことなどが報告されました。

全体会后、「高校教育をとりまく課題」「賃金・労働条件をとりまく課題」「職場・組織をとりまく課題」「高校組織のあり方」の4つの分科会に分かれ、各県のとりくみや現状などの情報を持ち寄り、議論しました。

また、終了後、大分高教組の案内による日出生台演習場のフィールドワークを行い、好評を博しました。

### 参加者還流報告

第3分科会では、職場・組織の課題について、情報交換、協議が行われました。その中で、職場の民主化・ハラスメントのない職場をめざすとりくみとして、大分高教組が長い間とりくんでいる「管理職評価」が話題として取り上げられ、他県の参加者が興味を持って耳を傾けている姿が印象的でした。何気なくとりくんでいる活動ですが、大変意味のある活動であることを改めて認識しました。

(日田支援分会 三石修)

全国各地から大分に多くの先生方が参加し、各地域の課題を基にして活発な議論がありました。メインの柱は、高校入試制度、人権教育についてです。九州はもちろん、岩手県から2名の先生方の参加でした。ある県は推薦入試を改めて特色入試という形で実施する報告でした。人権教育に関しては、西日本の学校は、人権学習はもちろん、講演会や研修会が積極的に実践されているが、東日本(岩手県)などは、特別な人権に関するとりくみはしていない、という報告でした。地域による温度差があることに残念な気持ちになりました。この2日間の分科会討議で学んだことを今後の実践に活かしていきたいと思います。(別府鶴見丘分会 河村幸夫)

## 第66回九協教育運動交流集会・ 第40回カリキュラム編成講座

とき：8月16日(金) 17日(土) ところ：水前寺共済会館グレースシア

第66回九協教育運動交流集会・第40回カリキュラム編成講座が熊本県で開催されました。大分高教組からは、第4分科会「社会」において、中津南分会の田尻洋佑さんが「国民国家の意義と課題を問う『歴史総合』の授業案『ジグソー法』を活用して」と題して、レポートを発表しました。

### ■ 参加者還流報告

#### 【第3分科会「子どもの権利を保障する」】

提案された2本のレポートは、どちらも定時制高校からの報告で、どちらも主たる内容は、学校行事としてとりくんでいる「哲学対話」、生活綴り方運動の流れを汲む「生活体験作文」であった。なかなか自分から心を開くことのできない子どもたちが、仲間たちや教員のことばに触れながら成長していく姿に感銘を受けた。分科会では「自分の思いを語る場をどのように作り活用するか」「子どもたちにとっての学び、学校とは？」を討議の柱として協議・情報交換を行った。課題として指摘された事項の数々は、講演の中でユニセフの「子どもの権利を大切にする学び」として紹介された「権利としての学び：誰もが教育を受ける権利を持つ」「権利についての学び：子どもの権利について学ぶ」「権利を通しての学び：子どもの権利を尊重した学びの環境を整える」「権利のための学び：社会に貢献する力を養う」につながっていた。今後のとりくみを進めるにあたって大いに参考にすることができた。(由布支援分会 濱田眞一郎)

#### 【第4分科会「社会」】

社会分科会では大分のほか沖縄、福岡からを加えた3名のレポート発表を行い、児童生徒を中心に置いた授業のあり方について活発な討議が進められた。小中高や歴史・地理・人権教育などに違いはあるが、共通して言えるのは科学的・合理的な視点に根差していくことだと感じた。合理的根拠に基づき意見表明し、科学的な分析と歴史的事実に則りながら平和・人権の教育活動を進めることの重要性を再確認する良い機会となった。(中津南分会 田尻洋佑：レポート発表者)

## 第55回九協組織運動交流集会

とき：10月5日(土) 6日(日) ところ：レクストン鹿児島

第55回九協組織運動交流集会が開催され、大分高教組からは6名が参加しました。九州の仲間が集い語る、有意義な時間を過ごすことができました。

この集会は、①九協の連帯と強化を図る。②競争主義・能力主義と管理主義教育の実態を明らかにし、民主的な職場づ

くりと現場からの教育改革運動を通じて組織拡大・強化を図る。③能力・実績主義人事管理を強化する教育政策に対し、情勢の的確な把握ととりくみの進め方の共通認識を図る。④各県における分会・支部・本部・専門部のとりくみを交流し、その後の各単組のとりくみの強化を図る。を目的として開催されています。

全体会后、6つの分散会に分かれ、各単組や支部・専門部の組織化のとりくみについて、レポートをもとに議論をしました。大分高教組からは、仁木史絵さんが、第3分散会で、大分高教組本部組織部長として行った組織拡大・強化のとりくみ、について、レポート報告をしました。

### ■ 参加者還流報告

「九協組織運動交流集会」に、レポーターとして参加しました。私は、3年間の組織部長としての総括を発表しました。3年間、大変なことも多かったですが、たくさんの組合員とつながりを作れたことを実感したし、他県のとりくみを聞いてまた分会でできることをやっていこうと思いました。

私が組織部長をしていた頃は、新型コロナウイルス感染症のためこの集会は1回しか対面で出来ませんでした。今回九州各地から多くの組合員が集い、とても楽しい時間を過ごせました。鹿児島は遠かったですが、久々に顔を合わせた組合員もいて、今後も頑張っていくエネルギーになりました。

(三重総合分会 仁木史絵)

九協組織運動交流集会には初めて参加しました。どこの県も加入に向けていろんな工夫をしているのだと改めて感じました。何かできることをと、話を聞きながら...とにかくなんでもいいから話しかけてみる、チラシを書いてみるなど行動するしかないと思いました。

最近、若い人が疑問に思っていることに答えられず...改めて、自分自身がいろんなことを知っておくことも大事だと思いました。答えられないことが多いので最近反省するばかりです。もう少し頑張ります。

(新生支援分会 田畑幸子)

第5分散会では、鹿児島県と沖縄県からレポートが発表されました。いずれも青年部の先生方が発表し、組織拡大は青年部の力に頼るところが大きいと感じました。

「組合という組織への偏見や誤解」「全体的な教職員不足」という2つが大きな討議の柱になりました。結論として、組合は労働者にとって絶対に必要であるということ、教職員が魅力的な職業であるということ、組合活動を通して訴えていくことが大切であるということ、を改めて実感できました。

(佐伯鶴城分会 安部憲毅)